

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

## 化学品の名称

製品名 ヨウ素酸カリウム  
製品コード

## 会社情報

供給者の会社名称 株式会社合同資源  
担当部署 営業部  
住所 〒299-4333 千葉県長生郡長生村七井土 1545-1  
電話番号 0475-32-2302  
Fax 番号 0475-32-1115  
電子メールアドレス sales@godoshigen.co.jp  
緊急連絡先 電話番号 (株) 合同資源 千葉工場  
(夜間・祝祭日) 0475-32-2122

## 推奨用途

一般工業用途

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

## 2 危険有害性の要約

## GHS 分類

## 物理化学的危険性

酸化性物質 区分 3

## 健康有害性

急性毒性 (経口) 区分 4

眼に対する重篤な損傷性/  
眼刺激性 区分 2B

## 環境有害性

分類できない

## GHS ラベル要素

## 絵表示



## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

火災助長のおそれ：酸化性物質  
眼刺激

## 注意書き

[安全対策]

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

衣類及び可燃物から遠ざけること。  
この製品を使用する時に飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること  
取扱い後はよく手を洗うこと

**[応急処置]**

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。  
飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること

**[廃棄]**

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

---

**3 組成及び成分情報**

---

**化学物質・混合物の区別**

化学物質

**組成及び成分情報**

化学名又は一般名： ヨウ素酸カリウム  
化学特性（化学式）：  $KIO_3$   
含量： 99.5%以上  
CAS番号： 7758-05-6  
官報公示整理番号 化審法：1-440  
安衛法：公示された化学物質

---

**4 応急措置**

---

**ばく露経路による応急措置**

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ安静にし、呼吸困難な場合は吸入を行い、医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流しながら、石鹼を使用してよく洗い落とす。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、水又は牛乳を飲ませて吐かせ、医師の手当を受ける。罹災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

**応急措置をする者の保護に必要な注意事項**

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

---

**5 火災時の措置**

---

**適切な消火剤**

棒状水、霧状水、粉末消火剤(リン酸塩類を使用するもの)

## 使ってはならない消火剤

データなし

## 火災時の特有の危険有害性

製品中にハロゲンを含有しているため、火災時に刺激性、あるいは有毒なヒューム(又はガス)を放出する。

## 特有の消火方法

火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
火元の燃焼源を絶ち、大量の水や消火剤を用いて一挙に消火する。  
移動可能な容器は、すみやかに安全な場所に移動する。  
消火活動は風上から行う。

## 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
作業の際は保護具を着用し、接触及び粉塵の吸入を避ける。  
風上から作業し、風下の人を避難させる。

### 環境に対する注意事項

環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものをすくい取り、また掃き集めて密閉出来る空容器に回収する。

### 二次災害の防止策

回収物、処理物を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

取り扱いは、換気の良い場所で行い、粉塵が発生しないようにする。

吸入、皮膚への接触を防ぎ、また目に入らないように適切な保護具を着用する。

みだりにヒュームや粉塵が発生しないように取り扱う。

接触回避

「10.安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手、眼を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

**保管**

技術的対策	消防法の規定に従う。
混触禁止物質	還元剤
保管条件	施錠して保管すること 容器は密栓し、なるべく涼しい乾燥した暗所に保管する。 他の危険物、可燃物、有機物と一緒に保管しない。
安全な容器包装材料	ガラス容器、樹脂容器、ポリ内装容器。

**8 ばく露防止及び保護措置****許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）**

日本産業衛生学会（2021）	2 mg/m <sup>3</sup> （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、吸入性粉塵）
	8 mg/m <sup>3</sup> （第3種粉塵（その他の無機および有機粉塵）、総粉塵）
ACGIH TLV- TWA (2021)	0.01ppm（Iodine and Iodides as inhalable fraction and vapor）

**設備対策**

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

**保護具**

呼吸用保護具	防塵マスク
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼及び/又は顔面の保護具	保護眼鏡やゴーグル
皮膚及び身体の保護具	安全帽、保護衣、保護長靴

**特別な注意事項**

情報なし

**9 物理的及び化学的性質**

物理状態	固体
色	白色
臭い	無臭
融点／凝固点	560°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	5～8（50 g/L、25°C）
動粘性率	該当しない
溶解度	水：4.74g/100ml（25°C）
n-オクタノール／水分配係数（log	log P = -7.18 : SRC (Access on Oct. 2010)

値)	
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	密度：3.89 g/mL (20°C)
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	データなし

## 10 安定性及び反応性

反応性	通常の実取扱い条件下では安定である。
化学的安定性	加熱すると分解する。 アルミニウム、ヒ素、炭素、銅、金属硫化物、有機物、リン、硫黄と激しく反応する。助燃性がある。
危険有害性反応可能性	火災助長のおそれ：酸化性物質 眼刺激
避けるべき条件	日光、水分、強熱及び上記の混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質	還元剤
危険有害な分解生成物	ヨウ素、ヨウ化水素、酸化カリウム

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性（経口）	マウス LD50 = 531、1177 mg/kg bw) (JECFA FAO NMRS 40A,B,C (1966))
急性毒性（経皮）	データなし。(GHS 分類：分類できない)
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	データなし。(GHS 分類：分類できない)
皮膚腐食性／刺激性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
呼吸器感作性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
皮膚感作性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
生殖細胞変異原性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
発がん性	IARC および NTP のリストに記載されていない。
生殖毒性	データなし。(GHS 分類：分類できない)
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし。(GHS 分類：分類できない)
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ不足。(GHS 分類：分類できない)
誤えん有害性	データなし。(GHS 分類：分類できない)

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性		
水生環境有害性	短期（急性）	情報なし
水生環境有害性	長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし

土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 13 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

#### 汚染容器及び包装

容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

### 14 輸送上の注意

#### 国際規制

国連番号	1479
品名（国連輸送名）	酸化性物質 固体（OXIDIZING SOLID,N.O.S.）
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	5.1
容器等級	II、III
海洋汚染物質（該当・非該当）	非該当
海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO・IATAの規定に従う。

#### 国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	航空法の規定に従う。

#### 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

### 15 適用法令

#### 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法	第2条危険物第1類ヨウ素酸塩類第1種酸化性固体(50kg)
船舶安全法	酸化性物質（危規則第3条危険物）
航空法	酸化性物質（施行規則第194条危険物）
港則法	酸化性物質（施行規則第12条危険物）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（沃化物）
毒物及び劇物取締法	該当しない

---

## 16 その他の情報

---

### 参考文献

NITE GHS 分類結果一覧 (2021)

日本産業衛生学会 (2021) 許容濃度等の勧告

化学便覧 基礎編 改定5版 丸善 (2004)

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2021) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。